

平成 27 年度第 8 回（147 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 28 年 2 月 16 日午後 2 時から

場 所：中清戸地域市民センター会議室 2

出席者：川原寿春、大津里美、新田斉、内田貞司、今間洋一、芹澤正男、朝倉勇、
小西一午、西畑省二、松里征男、築瀬忍、大槻義顯、木村敏夫、山下文夫、藤井裕介、渡辺正宏

事務局（市民協働係長、主事）

欠席者：白井航也、小寺茂、五十嵐玲子、菊谷有希子

<配布資料>

- 1 平成 27 年度第 8 回（第 147 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 提案「各種まつりの集約化を図り、パワーアップによる集客力の増強を図る」
回答 修正案
- 3 提案「清瀬市見守りあんしん事業（仮称）のネットワークづくりを立ち上げてほしい」回答 修正案
- 4 提案「健康ポイント制度の導入について」資料
平成 26 年 5 月 15 日号市報（ウォーキングを楽しもう）
清瀬市ホームページ記事（清瀬市保険福祉総合計画 誰もが地域でいきいきと暮らせるまちへ）
清瀬市保険福祉総合計画目標事業評価調書
健康ポイント制度とは
スマートウエルネスシティ（多摩市・三島市）
平成 28 年度概算要求主要事項（スポーツ庁）

1 開会

2 前回の確認

委員長：前回の議事要旨の確認をしてもらいたい。

委員：3頁目最後の行、財政、運営面で問題とあるが、問題を課題に訂正したい。また、4頁の7行目、今までは体育協会が主催になっているが、の文面はこれまでの経緯を考え、削除したい。それと参加者は300人前後とあるが一般の部の参加人数であり、全体の参加者は720人である。訂正したい。

委員長：他に意見なければ、訂正して完成としたい。

<委員了承>

3 提案審議

委員長：前回「各種まつりの集約化を図り、パワーアップによる集客力の増強を図る」の回答案を示し修正意見があったので再度修正した箇所の確認をしたい。

<副委員長が回答案を読む>

委員長：前回の回答案から今回修正した内容で意見があるか。

委員：「1回にまとめて実施するよりも、数回に渡って実施するほうが、むしろ集客はアップするのではないか」とあるが、通常分散すると集客は落ちると考える。誤解を招くのでこの文面は修正する必要があると思う。

委員長：「集客総数」を加入し、「1回にまとめて実施するよりも、数回に渡って実施するほうが、むしろ集客総数はアップするのではないか。」としたい。今回訂正でご了解いただいたという事でよろしいか。

<委員了承>

委員：続いて「清瀬市見守りあんしん事業（仮称）のネットワークづくりを立ち上げてほしい」の修正した回答案を確認頂く。

<副委員長が回答案を読む>

委員長：意見がなければ了承でよろしいか。

<委員了承>

委員長：今回はニンジンマラソン、健康ポイントの提案について資料がある。関連して先ほどスポーツ振興を図れる意味合いの発言があったが。

委員：体育協会役員会の中で行政に力を入れてもらった方が、枠を広げられるのではないかと意見があった。市の助成金と参加料で運営している。他団体の助成金の申請案内は多くくる。

委員長：助成金を申請し、うまく活用していくことも必要と思う。

- 委員：提出書類や結果報告書類が煩雑であり、その手続きを考えると助成金を受けることがプラスになるのか考えてしまう。
- 委員長：助成金受けないと良いサービスが成り立っていないのも事実。
- 委員：市民マラソンは記録会ではなく、健康増進のため実施していると考え。どちらを重視するのかによって規模や開催方法が変わってくると思う。
- 委員長：確かに市民マラソンは健康増進のためという背景があると思う。距離について意見はどうか。
- 委員：コースの確保ができないと始まらない。例えば10キロコースだと道の確保が難しい。また記録重視はしていない。市民参加型で運営している。
- 委員：他に健康ポイント制度の提案もあり、第4次長期総合計画においても健康のまちづくりの項目もある。両方一緒に入れることで審議していくことも必要ではないか。幅広く健康を捉えて話をしていく必要がある。
- 委員長：健康ポイントの提案にマラソンの件を取り込めるか検討していくことも必要かもしれない。
- 委員：平成21年からウェルネスシティは始まっている。行政側がどういう形で対応していくか、計画の中に成文化していくことが必要であることを提案することが大事。その中にマラソンも含め、予算の獲得も考えていくべき。
- 委員：ポイント制度とマラソンを一緒に考えるということだが、マラソンの提案に関しては、大会を大きくしてまちをアピールしていこうということ。ポイント制度とは別に考えていってよいと思う。
- 委員：ウェルネスシティの考え方を取り入れることによって予算も含め確定できると思う。
- 委員：まちおこしに繋げようと提案している。提案者には、マラソン大会に関しての回答としてだすべきと思う。
- 委員：健康に関してのシステムがあるという事を回答に盛り込むことも必要だと思う。
- 委員：立証試験を6市でやっている。清瀬市も試験的に行うのか。試験は6千歩が8千歩に増えて効果があり、うまく実施することができたとのことである。コンセプトは人が歩かざるを得ないまちづくりである。マラソンも含めて検討することもできるかと思う。
- 委員長：一緒に検討回答するか、別々に検討回答するか、意見集約したい。
- 委員：健康社会の実現に向けての資料にまちをつくる手段とある。ポイント獲得することが目的でない旨を考慮して検討していくべき。
- 委員長：別々に審議を進めていくべきとする委員は挙手をお願いする。
- <委員多数>
- 委員長：ではマラソン大会の方向性や集客力、また健康増進の面を含め委員の意

見をいただきたい。

委員：市民マラソンを続けていく事が重要。

委員：予算等考えると現状の継続でよい。

委員：継続でよい。ただし、もう少し広い目で健康を絡めていければよい。

委員：道路事情を考えると、大きくしていくのは難しい。現状維持でなおかつもっと楽しんでもらうにはどうしたらよいか考えることが必要。健康増進を考え、健康ポイントの付与はよいと思う。

委員：道路事情を考え現状でよい。

委員：同じ意見である。現状維持でよい。

委員：マラソンでのまちおこしは難しい。健康増進の中の一コマとして考えることはできると思う。

委員：参加者も記録重視の方は大きい大会に参加していると思う。清瀬市に参加している方はどちらかというと楽しんで参加していると思う。タイムや距離まで現状考えなくてもよいと思う。

委員：名称変えても、直接、まちおこしにはつながらない。現状でいかに運営していくかが重要。

委員：35回続いている大会は他にあまり例がない。このまま現状維持だと残念。青梅マラソンの例だと市民の人が沿道で応援してまちおこしにつながっているように感じる。また、特産品を使ってアピールしている大会も多い。時期尚早ということだけかたづけると先に進まない。なんとか大きくして、アピールできたらよいと思う。道路事情など運営で厳しい面もあるが、徐々に検討していくことは必要。大会の時に参加者にアンケートとり、今後の参考にするのもよい。

委員：親子で走れる大会にできるとよい。

委員：よい提案だと思う。現在の名称は市民マラソンだが市民以外のオープン参加にしている。体育協会として今後名称変更も検討していく。参加料金や距離に関しては今後の課題。また、ゼッケンなど企業の協力も課題である。

委員：運営・警備の難しさがある。競争より市民に親しまれる機会を与える方に主眼をおいて今後は考えていく必要がある。例えば、ひまわりまつりに合わせるなど、清瀬らしさを出して盛り上げていければよい。

委員：健康ポイントを活用するなど、健康にからめ、市民と協力して続けていくべき。

委員：35回も続いているので、市民の協力でもっと盛り上がるよう工夫は必要。

委員長：委員の意見としては現状維持でよいが、35回も続いている大事なイベントなので、もっと市民を巻き込み、アイデアを考え、活性化できた

らよいという方向である。そこを盛り込んだ回答案にしていきたい。

委員：意見を体育協会に伝え、運営の参考にしていきたい。

委員長：次に健康ポイント制度の導入について審議したいが、資料の基本的なものを一度整理してみないと、審議できない。

委員：市がどの程度進んでいるか、確認する必要がある。

委員：長期総合計画の中に項目があるので個別の事業として計画していると思う。

委員：ポイント制度まで考えているのか討議されているのかを知った方がよい。

委員：「スマートウェルネスシティに手を挙げ」と提案にあるが、市としても挙げるかも知ったほうがよい。

委員：市の方向性を確認してからだと思う。

委員長：次回、市の方向性確認した上で審議していく。

次回平成 28 年 3 月 15 日、14 時より生涯学習センター講座室 1 で行なう。